

辞任の辞

今般、全碁協の理事を老齡かつ体調不良で辞任した内久根でございます。新理事長の平岡 聡氏からの依頼で「辞任の辞を」と。思いを一言。

2017年12月12日 菊池 康郎 理事長（当時）他全碁協幹部は松野文科大臣（当時、現在内閣官房長官）室に集っていた。いよいよ「囲碁を小中学校の正課に」署名運動の成果（この時点で11万件強）をもって大臣に直に迫ろうという訳である。本会議の冒頭、私は前置きなしにいきなり「本運動の成果を、徳島県が第一位」と発表した。全都道府県の人口比率署名数一覧を用意していた。隅々「囲碁文化振興議員連盟」から応援団が部屋の隅をうずめていたのだ。その中に徳島県選出の後藤田議員がいた。「おっ！徳島県が第一位か！」と大声を発した。出席者は殆んど議員、流石選良の皆さん、争ってこの序列表で自分の出身地を探す。人口全国最少県の一つ徳島県が〇〇で日本一とかいうのは滅多にない（失礼！）が中にいる人材次第ですね。県連の会長は 高木 純一郎氏。私も親交のある方だった。その元で熱狂的に会長を支えたのは 坂部 三吉氏（残念乍ら少し前に亡くなられた）。その後は氏に心酔していた 松永 光雄氏が代った。人のつながりがいかに世の中を動かすのかの典型的なものであったとつくづく思う。

閑話休題。話は飛ぶが、私はこの署名活動をもっと全国展開するためには、全国の刑務所にも一役買ってもらえないか。もう前後の見境も失っていたのかも知れない。一票でも欲しかった。網走の刑務所に突然電話をして見た。その時は冷静さを取り戻していたが、囲碁の教育効果を問題とすべきであった。所が、何と先客があったのだ。前述の 高木 純一郎氏だ。氏は既に刑務所で碁を教えていたのだ。それが成績優秀で法務省から表彰式に招待されていた。僕は氏を法務局まで車で送り届けた。彼は中に、僕は入口まで。親しい友人が、更に尊敬する友人に。所で、その法務局もなかなかやるではないかとの感想を持った。

最後に、今後の全碁協に一碁人としての希望を一言。全碁協の主とする所は、当然乍ら囲碁普及である。取りあえずは理念を叫ぶ事も大事だが、碁会所を増やす事ではないか。現在はコロナ禍でもあり激減している。これを反転に転じねば。これを普及のバロメーターとすべきだ。又、正課への問題は、当面は課外授業の充実と文化庁との協力関係の推進が現実的ではないかと思えます。とも角、多難な課題は多いが着実な前進を祈ります。

令和4年1月31日

内久根 孝一